

平成 30 年度授業改善プランの検証

- ・一つ一つの授業について、資料の提示、指導実践の工夫、内容の精選をした結果、興味をもたせることができた。
- ・授業の学習課題を明確にし、達成感をもたせやすいようにした。
- ・地図やグラフなど諸資料を読み取り、因果関係を説明する学習を多く取り入れるとともに、話し合いや学び合いなどの学習形態の設定により、思考力・判断力・表現力の育成に力を入れることができた。

社会科における調査結果の分析

内容結果の分析	<p><第1学年> 概ね、目標値に達している項目が多く、かなり正答率の高い区分もある。「我が国の農業や水産業」「我が国の歴史」のみやや下回っている。</p> <p><第2学年> 概ね、目標値に達している項目が多い。しかし、「世界の諸地域」「中世の日本」などが下回っている。</p> <p><第3学年> 概ね、目標値に達している項目が多い。しかし、「日本の諸地域」「近世の日本と世界」などが下回っている。</p>
観点別結果の分析	<p><第1学年> 社会的事象についての知識・理解以外は、目標値を大きく上回っている。知識・理解も僅差ではある。</p> <p><第2学年> 資料活用の技能と社会的事象についての知識・理解について、目標値を下回っている。</p> <p><第3学年> 全ての項目について、目標値を上回っている。</p>

調査結果に基づいた授業改善のポイント

- <第1学年> 社会科に対して興味や関心の高い生徒が多いので、その意欲を失わないように、より基本的な事項の定着を図る。
- <第2学年> 知識の確実な定着のため、繰り返し小テスト、単元別テストを行う。「活用」の値も高いので、諸資料の読み取り、思考力、表現力を深める話し合いなどの活動を取り入れる。
- <第3学年> この良績を崩さず、来たるべき進路選択に備えて、基礎力と応用力の増強に力を入れる。

社会科の授業改善策

- <第1学年> 興味・関心をもたせるために、1回1回の授業の学習課題を明確にし、達成感をもたせるように指導の工夫を行う。知識の定着を図るために、理解度を確認するようなテストを行う。
- <第2学年> 歴史、地理ともに、諸資料を読み取ったりそこから表現したりするような活動を授業で取り入れ、思考・判断・表現・資料活用の技能を高めるとともに、小テストなどで知識の定着を目指す。
- <第3学年> 公民的分野で現代社会の諸問題と教科書の内容を関連させ、興味をもたせながら考える活動を続けていく。受験を見据えて、単元テスト等で知識の確認をしていく。